

# 協同的に課題を解決するための切り抜き新聞づくり

## 広島県立呉三津田高等学校

### 1 活動概要

本校の総合的な学習の時間では、生徒に協同的に課題を解決する力を身に付けさせることをねらいとして、第1学年の第1学期に「切り抜き新聞づくり」に取り組んでいる。生徒4～5人のグループで設定したテーマについて新聞記事や写真等の資料を収集し、解決策を多面的・総合的に考え、模造紙程度の大きさの切り抜き新聞を作成する。また、それを地元新聞社主催の「みんなの新聞コンクール」に応募している。

この学習は、生徒が社会にある諸問題を理解するだけでなく、社会事象の背後にある多様な価値観に気付き、多面的に考え、他者と協力・協同していく体験的な活動である。このような視点から、「切り抜き新聞づくり」は「ESD」の考えに沿った取組といえる。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

「切り抜き新聞づくり」は、生徒に現代社会に生起している様々な諸問題への関心をもたせるきっかけになるとともに、自分の進路と結び付けて考えさせることにより、主体的に行動できる人間（「自立的な人間」）を育てるチャンスともなる。本校の総合的な学習の時間のスタートに位置付けているため、新聞を作成することだけが目標にならないよう、設定したテーマについて多面的・総合的に探究させることに留意している。

本校の総合的な学習の時間における新聞づくりは、個人で行うのではなく班単位で行っている。この協同的作業の中で協調性を育むとともに、協同で課題解決を迫られるような体験をさせ、そのことにより人の意思や行動には多様な在り様があることに気付かせるためである。

#### (2) 指導のポイント

- ☆ グループのテーマを設定させる際には、持続可能な社会の実現に向けて何が課題となるのかということについて問題意識をもたせ、その後の探究活動やメッセージの発信につなげる。
- ☆ グループで設定したテーマについて、どのような問題があるかを理解するだけでなく、なぜそのような問題が起きているのかについて深く探究し、問題の背後にある多様な見方や考え方、価値観などに気付かせる。（付けたい力1，2）
- ☆ 問題の解決策としてグループから発信していくメッセージを考える活動を通して、グループメンバーの多様な意見を理解し、尊重しながら、議論していくことを体験させる。（付けたい力2）
- ☆ 課題解決に向けた体験的な協同作業を、3年間を見通して継続的に実施することで、協同して課題を解決していく態度を育成する。（付けたい力2，3）

### 3 学習指導案

◎本時の授業…本実践は、生徒がグループに分かれ、グループごとにテーマを設定し、そのテーマについて収集した資料を分析して「切り抜き新聞」を作成する学習活動である。

#### (1) 本時のねらい

- 現代の社会に生起している諸問題の中から課題を設定し、その解決策を多面的・総合的に考えることができる。
- 他者と積極的に意見を交流しながら協力して学習することができる。

#### (2) 対象学年 第1 学年



	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 切り抜き新聞づくりのポイントを考える。	・「みんなの新聞コンクール」実施要項や昨年度の最優秀作品のコメントなどから考えさせる。	
展開	2 グループのテーマを設定する。	・自分たちの生活との関連を考えさせ、課題意識を明確にさせる。	
	(あるグループのテーマ例) あなたは日本の未来を創造できますか? ～今を築こう未来のために～		
	3 ゲーム遊びが子どもの世界に深く根を下ろすようになってきている。ゲーム遊びは、今、どんな現状にあるのだろう。～ゲームがもたらした親子の溝～ 4 ゲーム遊びをめぐる子どもの現状に対して、親はどんな考えをもっているのだろう。 5 子どものゲーム遊びのデメリットを解決するために、どんな方策があるのだろう。 6 切り抜き新聞の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の中で何が問題か、さらに探究すべき課題を絞らせる。</li> <li>・読者に現状を明確に伝えることができるよう、内容を考えさせる。</li> <li>・ゲーム遊びに対する否定的な考え方にも様々なものがあること、その背後には価値観の多様性があることに気付かせるようにする。</li> <li>・子どものゲーム使用をめぐる親の様々な対応について分類・整理させる。</li> <li>・親の対応の本質を深く考えさせ、深みのあるコメントをつくらせる。</li> <li>・親がとるべき対応以外にもどのような対応が考えられるか、新聞記事等の資料を収集させる。</li> <li>・自分たちが発信するメッセージを、意見を出し合ってまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現代の諸問題の中から課題を設定している。</li> <li>○解決策を多面的・総合的に考えている。</li> <li>○他者と積極的に意見を交流しながら協力して学習している。</li> </ul>
まとめ	7 振り返り	・今後、自分たちができることを考えさせ、表現させる。	

### 4 生徒の反応 (授業後の感想等)

グループでテーマを設定して資料を収集する段階では、思うような記事を集めることができなかったが、この学習を通して、以前よりも新聞を読むようになり、社会への関心も高まった。

記事に付けるコメントを内容あるものにするのがなかなかできなかったが、テーマについて深く考えていくことによって、記事の背景にある価値観の違いなどに気付き、最後には内容のあるコメントを書くことができた。

発信するメッセージをどうするかについて、グループで意見を出し合い、異なる意見をまとめていく過程で、最初は、一人で作成するよりも難しいことに気付き戸惑っていた。しかし、意見交換を通じてテーマに対する様々な視点や考えに気付き、次第に協力し合って仕上げていくことの良さを実感することができた。

# 国際理解を深める「アートリンク」～姉妹校との合同学習を通して～

## 広島県立広島井口高等学校

### 1 活動概要

第2学年の総合的な学習の時間では、国内外の諸問題に目を向け、幅広い視野から深く物事を考える態度を身に付けるとともに、体験的な学習活動を通して主体的に行動する態度を養うことをねらいとして、「アートリンク」に取り組んでいる。「アートリンク」とは、外国の学校と連携して、両校の生徒たちが統一テーマについて意見を交換するという活動である。具体的には、両校の生徒たちが小グループに分かれ、与えられた統一テーマのもと、独自に設定した個別の課題について意見をまとめて写真と英文で表現したり、ディスカッションを行ったりする。この活動は、生徒たちが異文化理解を深めるとともに、国際的な視野で共通の課題を発見し考察していく契機となっている。この活動を通して、国際的なコミュニケーション能力や社会の諸事象について論理的に考え判断する力、違いを認め合いつつ他者と協力・協同して問題解決を図ろうとする態度などを育成することが目指されており、このような点から、「ESD」の視点に立った学習指導となっている。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では毎年修学旅行でハワイを訪れ、姉妹校のアイエア高校と交流するとともに、総合的な学習の時間に、年間を通した「文通」活動を行っている。手紙のやりとりや種々のカードの交換によって互いの文化に対する興味・関心は高まり、親密度も深まったが、さらにそれぞれの文化やものの考え方について理解を深めることはできないかと考え、「アートリンク」を導入した。「アートリンク」の企画や運営は、双方の担当者がメールで連携しながら進めている。また、これらの活動は英字新聞「The Inokuchi Guardian」(注1)の記事として発表する。(注1) 修学旅行や総合的な学習の時間の中で、生徒が設定した課題について情報収集・分析したこと、また自分たちが考えたことを、英文で掲載。毎年2月発行。)

この「アートリンク」プログラムを通して、生徒がねらいとする力を身に付けることができるよう、本プログラムと総合的な学習の時間及び他の学習活動を関連付けながら、継続的に学習を進めてきている。

#### (2) 指導のポイント

- ☆ 各グループが個別の課題を設定する際には、持続可能な社会の実現に向けて何が課題となるのかという問題意識をもたせ、その後の情報収集や分析及び絵の制作や写真の撮影、メッセージの作成につなげる。
- ☆ 両校の生徒が統一テーマについて調べて制作した絵や写真及びメッセージを交換することにより、生徒の関心を高め、国際社会の問題をより身近なものとして捉えられるようにする。
- ☆ 統一テーマに対する多様な立場や考え方の違いに気付かせるとともに、違いを認め、相手の立場や考えを理解し尊重しながら議論していくことを体験させる。(付けたい力2)
- ☆ 姉妹校の生徒との3年間にわたる継続的な合同学習を通して、異なる生活・習慣・価値観などについて理解させるとともに、相手を尊重しつつ協同して課題を解決していく態度を育成する。(付けたい力2, 3)

### 3 学習指導案

◎本時の授業…本実践は、統一テーマについて各グループで個別の課題を設定して意見をまとめ英文を作成するものである。

#### (1) 本時のねらい

- 国際社会における諸問題に目を向け、幅広い視野から深く物事を考える態度を身に付けるとともに、国際的なコミュニケーション能力を養う。
- 体験的な学習活動を通して、自己実現を図ろうとする意欲を高め、将来の進路実現に向けて主体的に行動する態度を養う。

#### (2) 対象学年 第2学年

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 学習目標とテーマを確認する。 統一テーマ「水」 2 小グループに分かれる。	・写真を用意するためにフィールドワークの必要性があることを押さえる。	
展開1	3 学習資料を読んで、学習方法について理解する。 4 グループごとに、個別の課題を決める。	・環境・歴史・文化等さまざまな視点から統一テーマをとらえさせる。	
	(例) 平和公園の灯籠流し…被爆都市ヒロシマの歴史や灯籠流しに込められた犠牲者に対する慰霊の気持ち、平和を願う心などをどう伝えるか。		
展開2	5 個別の課題について調べ学習をする。 6 写真とメッセージを作成する。 (1) 写真を決める。 (2) メッセージの構成を考え本文を分担して書く。	・写真はイメージを決めさせ、撮影については別途計画を立てさせる。 ・生徒から質問があれば、机間観察をしながら個別に指導する。	○課題について資料を収集・分析して、表現している。
	7 姉妹校から届いた写真とメッセージを読む。 8 ディスカッションを行う。 (1) 届いた写真から伝わるものは何か。 (2) 統一テーマに関する相違点や共通点は何か。 (3) 共通の課題となることは何か。 9 ディスカッションを踏まえて自分の考えを文章にまとめる。(英文)	・最初は写真だけを見せ、何の写真かを想像させた後、メッセージを読ませ、最初の印象との違いについて考えさせる。 ・相違点や共通点の発見を通して、異文化理解の重要性やこれからの国際協力のあり方について考えを深めさせる。	○ディスカッションをもとに自分の考えをまとめている。
終結	10 振り返り	・この活動を通して明らかになったこと、今後の展望などについて振り返らせる。	

### 4 生徒の反応 (授業後の感想等)

統一テーマについて姉妹校の生徒と意見を交換してみても、生徒は見方や考え方の違いに驚く一方、社会事象について幅広い視野から深く考えることによって、多面的・総合的にとらえることの大切さに気付くことができた。

また、生徒は、姉妹校の生徒との手紙や会話、意見交換において、コミュニケーション力の不足を実感し、コミュニケーションの内容と技術の両面を質的に高めたいという意欲が高まった。



# 国際協力について考える「現代社会」の授業

## 広島県立高宮高等学校

### 1 活動概要

本校では、公民科「現代社会」の時間を中心に、総合的な学習の時間の学習活動との関連も図りながら、生徒たちに、国際社会の動向を理解させるとともに、国際社会において日本の果たすべき役割や自分たちは何をどうすべきかを考えさせる取組を行っている。

具体的には、ホームルーム活動においてインドネシアに関する異文化理解の授業を行ったり、JICA（国際協力機構）の国際協力推進員による出前講座を取り入れたりしている。また、総合的な学習の時間における『地球市民講座』選択者は、前期にはアメリカ人ALTと、後期にはカンボジア、中華人民共和国及びインドネシアからの外国人講師と国際交流授業を展開している。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校には、元青年海外協力隊帰国教員（インドネシア派遣）が所属していることから、その教員の体験を交えた青年海外協力隊の国際貢献の事例を、学習の中心的な教材として取り上げている。このことにより、生徒が国際社会における課題を身近なものとしてとらえ、課題の本質は何かを深く追究し、我が国の国際貢献の在り方について考察させることができると考えている。

第3学年の生徒には、10・11月に7時間、「現代社会」の「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の単元において、国際協力に関する授業を本実践を含め集中的に実施した。

「ESD」の視点に立ち、平和などの概念について様々な情報をもとに異なる立場で考えさせ、国際社会の現状について本質を見抜くことができるよう学習を進めている。

#### (2) 指導のポイント

- ☆ 元青年海外協力隊帰国教員の実験の体験を聞いたり、平和貢献活動の様子を具体的に示す写真やVTRを用いたりすることにより、生徒の関心を高め、国際社会の問題をより身近なものとしてとらえられるようにする。
- ☆ 持続可能な国際貢献活動とするためには、現地の人に受け入れられる協力活動（現地の人々が活動を理解し、受け入れ、現地の人々が動いてくれるようになること）である必要があることに気付かせる。（付けたい力2）
- ☆ 異なる文化の生活・習慣・価値観などについて「どちらが正しく、どちらが誤っているか」という、互いの違いを認めつつ、相手の立場や考えを理解し尊重しながら、協同して課題を解決していく態度を育成する。（付けたい力2、3）
- ☆ 写真やVTRを用いる際には、視聴する際のポイントを示し、課題意識をもたせ、その後の探究活動につなげる。

### 3 学習指導案

◎本時の授業…本実践は公民科「現代社会」の「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の単元において青年海外協力隊の国際貢献活動を取り上げて教材化した実践である。

#### (1) 本時のねらい

青年海外協力隊の活動事例から、日本がアジア圏で行う資金協力以外の国際協力(社会貢献)活動について、平和貢献活動とも関連付けて自己の考えを深めることができる。

#### (2) 対象学年 第3学年

	学習活動	指導上の留意事項	評価
導入	1 協力隊員としてやって来たのに、「活動する場がない」と言われたら、どうするか考える。 2 VTRを視聴する。 3 学習課題を確認する。 配属先の協同組合が事実上活動停止に陥ったのはなぜだろう。	・VTRを視聴する視点を提示する。 	
展開1	4 協力隊として行った8つの活動をワークシートにしたがって分類する。 5 なぜこんなにたくさんの活動があるのかを考える。	・教育文化, 収入向上, 環境・衛生の3つに分類させる。 ・国際協力を行うためには, 日々の生活の中で, 人々の信用を得ていくことが重要であることに気付かせる。 	
展開2	6 なぜインドネシア人が広島の前爆についてのポスターをつくり, 現地の人々へ熱く語っているのか考える。	・協力してくれたインドネシアの人が広島の前爆に関する平和学習の様子を見て, 自分たちが自分自身の問題としてとらえ, 自分たちが変わらなければならないと認識して活動していることに気付かせる。	○協力した現地の人, この活動に対する姿勢について理解している。
まとめ	7 先輩隊員の配属先は現地の人による活動とならず, 活動停止となったことを知る。 8 国際協力で大切なことは何かを考える。	・現地の人々の理解と協力を得た上で活動を進めるとともに現地の人々が自分自身の問題としてとらえるようになることが, 持続可能な活動となる上で大切であることに気付かせる。	○国際協力において大切なことを自分の言葉で記入している。

### 4 生徒の反応 (授業後の感想等)

- 赴任先がなくなり, 活動場所が定まらなくても, 自分でできることを見つけていくのはすごいと思った。
- 日本人が技術提供をしてインドネシアの人が自分で物をつくって売れるようになればいいと思う。日本人が一生懸命になって教えても自分から仕事をしてくれるようにならないと意味がない。日本人は興味をもってもらえるように努力していかないといけないと思う。
- 国際協力は, 協力する側と現地の人々の両方が動くべきだと思う。大切なのは上手くバランスを取りながら援助していくことだと思った。



#### ※ 参考資料, 参考URL

- ・開発教育協会『開発教育 2010 Vol. 57』明石書店 平成22年
- ・『教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻』独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター 平成18年
- ・<http://www.jica.go.jp/> (JICA 国際協力機構)